

コラム 12

ジュバ近郊の様々な村

ニヤミニ村

ジュバから北西に40キロほど行ったところにニヤミニ村という貧しい村がある。中州の村はすべて農耕系のバリ族の村であったが、ここは、牧畜系のムンダリ族も混じって住んでいること、川などがなく水が豊富でない、街からも遠く、教育を受けている人の割合が低いなどの条件が異なり、一目見ただけで貧しいことが見てとれる。

子どももサンダルをはいている子は少なく、小さい子どもは全裸で、しかも栄養状態も悪そう。



この村で、村人のニーズ調査（どんな活動がしたいかの調査）を行った土肥所員に聞いたところ、色々なことを理解してもらうのに非常に時間がかかり、難しい村だとこぼしていた。

私は、ここ農民に「野菜生産などの活動がうまくいって、現金が手に入ったら、何がしたいですか？」と聞いた。すると、ある農民（グループのリーダー）は、「トラクターなどを買って、農地を広げたい」と答えた。如何にも優等生。リーダーになるだけのことはある。

ところが、別な若い農民は、「家畜をたくさん買いたい。そして、女性を買いたい（結婚したいという意味）」と答えた。結婚するためには、この地域の習慣で牛50頭を女性の家族に贈る必要があり、貧しい農民はそれができないという。買う（Buy）という表現を使ったのは少々驚いたが、残念ながら、この地域では、まだそういう発想が残っているのかもしれない。

牧畜民は、自分の家畜を食わせるために移動させ、時に農耕民の畑も食い荒らしてしまうことがあるという。が、牧畜民はみな銃を持っており、怖くて断れないという。プロジェクトでは、農耕民だけでなく、牧畜民の生活も良くなるような工夫が必要だと思う。理想論だが、彼らが両方ともwin-winになるような活動がないか模索してみたいと思う。

カグアダ村

ニヤミニ村の次に行ったカグアダ村で会った典型的な牧畜民。彼は自称45歳、家畜を375頭保有しているという。

偶然に出くわした人なのに、事務所の運転手Jのおじさんだそうだ。なかなか迫力がある。こういう人たちと話し合って、プロジェクトを進めていくのはなかなか大変だ。

